

75歳以上(一定の障がいがあると認定された65歳以上)の方へ 後期高齢者医療制度(長寿医療制度)だより

住民説明会を開催します

後期高齢者医療制度は、平成22年4月から保険料率が見直されます。また、新たに高額介護合算療養費制度も始まっています。

「保険料の負担はどれくらい変わるの?」「制度は廃止されるの?」などの皆さんの疑問にお答えし、また、より詳しく制度についてご理解いただけるように、住民説明会を次のとおり開催します。

▶日時・場所 / 3月18日(木) 10時~正午=川湯ふるさと館、14時~16時=社会老人福祉センター

▶主な内容

- 後期高齢者医療制度について。
- 給付サービスの内容について。
- 各種申請手続きについて。
- 保険料について。

▶説明 / 北海道後期高齢者医療広域連合

▶対象 / どなたでも参加できます。年齢は問いません。

▶申し込み / 特に必要ありません。



高額介護合算療養費の申請書が発送されています

医療費と介護サービス費の自己負担額を合算して基準額を超えた場合、その超えた金額を支給する「高額介護合算療養費」の支給申請書が、対象となる方に発送されています。

具体的な手続きやご不明な点などについては、役場保健福祉課医療保険係までご相談ください。

保険料の納め忘れはありませんか?

今年度の後期高齢者医療保険料の納期は、**2月25日(木)**が最後となっています。お手元の納入通知書をご確認の上、納期内での納付にご協力ください。

皆さんが納める保険料が、大切な財源となります。

国保からのお知らせ

70歳から74歳までの方がお医者さんにかかったときの自己負担割合は、4月から2割に引き上げになる予定でしたが、これまでと同じく1割(現役並み所得者は3割)に据え置かれることになりました。

自己負担割合が「1割」と記載された高齢受給者証については、3月下旬ごろの発送を予定しています。

□問い合わせ先 / 役場保健福祉課医療保険係 ☎ 482-2935 (課直通)

弟子屈2daysエコパスポートの冬バージョン登場

弟子屈2daysエコパスポートの販売が始まり、販売初日の1月23日、摩周駅前出発式が行われました。出発式には、吉備津民夫副町長や桐木茂雄弟子屈商工会長など、関係者約30人が出席し、事業の成功を祈りました。

エコパスポートは、観光交通実証実験として昨年の7月から10月にかけて初めて販売。JR釧網本線の摩周~川湯温泉駅間と、町内すべての路線バスが2日間乗り放題で1,000円(大人)という企画チケットです。観光客を中心に好評を博したことから、今回は弟子屈商工会が中心となり冬季も販売することになりました。利用期間は2月21日(日)までです。

□問い合わせ先 / 弟子屈商工会 ☎ 482-2259、ツーリズムてしかが ☎ 483-2101、摩周湖観光協会 ☎ 482-2200



出発式の様子



生徒も参加しながら楽しく進んだ講座

弟子屈町は「宝の山」

山田さんが弟子屈高校で「観光」「環境」講座開講

弟子屈高校(鈴木晃校長)は12月15日、総合的な学習の環境で、2回目となる観光講座を開講しました。
国土交通省の観光カリスマで、町の観光まちづくりアドバイザーでもある山田桂一郎さんが講師を務め、前回に引き続き観光にかかわる地域の魅力について話しました。

観光講座は3年生を対象としたカリキュラムで、約60人が受講しました。

講演のテーマは「続・弟子屈町の観光について」です。

山田さんは冒頭、最近面白かった体験として、長野県飯田市の遠山郷で行われている「霜月まつり」を紹介しました。この祭りは、映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなった伝統行事です。

その上で、観光客はどのような「自分たちと違うライフスタイルには興味がある」と説明し、「非日常」よりも「異日常性」が共感を呼ぶと話しました。

また、山田さんは生徒に、前回の講演を聞いた上で「弟子屈町は良い町だ」と思う人、理由を聞くと、少数が挙手。理由は「都会よりも安心して生活できる感じ」「オープンキャンパスで札幌に行ったが、ゆつくりできずに早く帰りたいと思った」などでした。

反対に「弟子屈町にはあまり魅力がないと思う人」との問いかけには、約3分の1超の生徒が挙手。その理由は「人がいなくなり、いずれ滅びる町だから」「山間部にある町だから」「メチャ不便」といったものでした。

これに対し、山田さんは「私や都市生活者から見れば、弟子屈町は宝の山にしか見えな。摩周湖、屈斜路湖、硫黄山、温泉：魅力だらけである」と話し、生徒に弟子屈町の普遍的な魅力を語りました。

その後、まとめでは、生徒に弟子屈町の「良いところ、悪いところ(後段参照)」を発表してもらい、その結果について「弟子屈町は自然環境が圧倒的に良いところなので、この長所を伸ばすことが大事。また、交通の不便さなどは理解するが、交通の便が良くなり過ぎると、日帰り観光客が増える。日帰り観光客は消費が少ないなどマイナスもある」と強調しました。

昭和初期の生活・風習学が「昔ばなし座談会」で地域の歴史伝承を目指す

てしかがえこまち推進協議会女性部会(藤原多美・部会長)と人財育成部会(萩原寛暢・部会長)は12月10日、川湯ふるさと館で「昔ばなし座談会」を開催しました。

この座談会は、地域の良いところを見直すとともに、自分たちの生活に生かしていこうというところで取り組まれたものが集まりました。

座談会は、川湯温泉の藤原さんが進行役、地域に古くから暮らす5人の方が講師と

環境カウンセラー(事業者部門)を務めていることもあり、後半は環境保全についての講演も実施。生徒は、自らの日常生活を振り返りながら、熱心に聴講していました。

この日は、フジテレビ「新報道2001」の取材が同行。講座



座談会で昔の暮らしについて語る講師

の一部は、12月20日に放送された同番組中「てしかがえこまち推進協議会の取り組み」の特集で、全国に放送されました。

生徒が発表した主な内容
【良いところ】
自然が多い / 町民の交流が深い / 水がおいしい / 町民が優しい

【悪いところ】
交通の便 / 店(種類)が少ない / 商店街が廃れている / 町中にごみが落ちて